

ノーツ・プラットフォームがバランススコアカードに合っている訳

ADBS はノーツノドミノプラットフォームを利用したバランススコアカードソフトです。バランススコアカード運用をサポートする IT ツールとして、なぜノーツ・プラットフォームが適しているかについて解説します。

【すでにあるインフラの活用】

技術革新の早い時代においては、変化するネットワーク技術に対応できるもので、できればすでにあるインフラや IT 投資を最大限に利用できるものが求められます。その点、ノーツノドミノは大規模ユーザーの実績もあるインフラとして、グループウェアのデファクトスタンダードとなっています。

また、慣れ親しんだユーザーインターフェースを使用することができるという安心感は、抵抗のあがりちなバランススコアカードの導入運用をスムーズにします。

【柔軟な DB 構造】

バランススコアカードは進化しつづける経営管理手法で、いろいろな応用が生まれつづけています。このようなものを扱うため、RDB のような構造化された DB で仕組みを構築した場合、変化に対応できない恐れがあります。

非構造化を特徴とするノーツノドミノは柔軟性をもつ DB です。動かしながら設計変更してゆく柔軟性、小さく始めて大きく育ててゆくことのできる DB ですので、進化するバランススコアカードに対応してゆくことができます。

【RDB などとの連携】

財務などのデータは基幹システムに蓄積されているのが普通ですが、いろいろな RDB などとのデータ交換もノーツノドミノはツールが充実しています。SAP、ORACLE、DB2、Essbase、Access など、多くの種類の DB との連携をカバーしています。

拡張性あるプラットフォームです。

【セキュリティ構造】

グループで使用することを前提に作られているノーツノドミノは、セキュリティについてもきめ細かな機能を持っています。バランススコアカードを個人レベルまで展開、個人の目標管理、業績評価に進んでゆく場合も、セキュリティが重要なカギとなってきます。

シングルパスワードで、大規模な展開においても高いセキュリティレベルを保てる、唯一のプラットフォームです。

さらにまったく新しい試みとして、アライアンス関係にある企業間でのバランススコアカード利用もきめの細かいセキュリティ設定によって可能となり、ネットワーク時代のマネジメントに大きな革新をもたらします。

アライアンス関係にある組織間、行政機関への応用も同じく可能となります。

【評価からアクション、ナレッジへ】

バランススコアカードを業績評価の指標管理として使用するレベルで終わってしまうのでは、組織の

改革という点で不十分です。やはりアクションにつなげて、改革をすすめるものである必要があります。さらにそのような思考過程、経験をベストプラクティスとしてナレッジ資産化することができれば、他部門の経験を生かすことができます。このことは特に大規模な組織の改革に大きく貢献します。

対応アクション管理、ナレッジ共有のレベルへ進めるためには、ナレッジマネジメントに最も活用されているノーツノドミノが、他のナレッジマネジメント資産との統合を図る上で最も親和性の高いプラットフォームとなっています。

【データ収集のコスト削減】

バランススコアカードは財務関連のデータだけではなく、その3分の1から半分近くは既存のシステムに無い指標を扱う場合が多いといわれています。このことはどうやってデータを収集するかという責任と権限、プロセスの問題にかかわってきます。同時に、セキュリティやデータ取り扱いコストの問題となってきます。

ノーツノドミノのプラットフォームを利用すると、データの編集権限のある人が特定でき、ネットワークを介して安全に低コストでデータの収集を行うことができます。

ある10000人規模でバランススコアカードを導入した会社では、スプレッドシートとメールを利用していた場合に比べ、年間500万ドルのコスト削減を図ることが出来ると試算しています。

【アクション管理とコーチング】

成功要因にかかわるアクションを見渡せるということは、コーチングの良し悪しがかかわってきます。これをレベルアップすることは組織の強さの根源にかかわります。

ノーツノドミノのインフラはディスカッションなどで活用されているように、コーチングの支援をするプラットフォームとして最適です。

そして上級経営層へ上げるレポートの削減にもつながり、ダイナミックな改革を推進、戦略などを取り上げた会議内容の充実を図ることができます。

【経験と実績】

大規模展開での実績は行政機関や企業におけるシェアが物語っています。グループウェアでノーツノドミノのシェアは、民間企業の53%、中央官庁においては71%のシェアを獲得しています。(2001年ロータス資料)特に従業員1000人以上の大企業においては企業の80%がグループウェアを導入し、そのうちの60%以上がノーツノドミノを選択しています。

2001年のバランススコアカード・ヨーロッパサミットにおける事例発表でも、ADBSが大規模展開の世界最大級の事例として注目を浴びました。

【ノーツノドミノ・プラットフォームを生かすADBSの機能】

ノーツノドミノの可能性を生かすために、ADBSは独自の機能を付加しています。

1. データをビジュアルに見せるKASエンジン
2. 早いレスポンス
3. CSFとナレッジマネジメントのリンケージ

これらにより、従来のノーツノドミノで弱かった表現力を改善、直感的にわかる使用感を達成しました。

さらにADBSではOLAP機能もついて、分析リテラシーの向上にも貢献します。

【BSCの世界をカバーするロータスソリューション群】

ナレッジマネジメントを推進してきたロータスソリューション群は、バランススコアカードの世界をカバーする製品群を持っています。4つの視点別にあげますと、

1. 財務の視点：ESB、ノーツポンプ
2. 顧客の視点：CRM・SFAソリューション、Webアンケート構築
3. プロセスの視点：ロータスワークフロー
4. 学習と成長の視点：ディスカバリーサーバー、ラーニングメディア、セიმタイム

基幹システムに存在する財務データをドミノ環境にリンクさせる ESB、ノーツポンプ。そして WebSphere や DB2、OLAPLINK との親和性。

急がれる顧客周りの外部情報を取り込み、共有する CRM・SFA ソリューション。

ABC、ABM などにも関連するプロセスの測定、改善につながるロータスワークフロー。

ナレッジマネジメントをサポートするディスカバリーサーバーと教育を推進する E ラーニングツールのラーニングメディア、コラボレーションのためのセიმタイム。

すべてがノーツ/ドミノプラットフォームを中心に連携してゆきます。

企業に存在する膨大な情報系データを、経営の指標とリンクしてゆく可能性を秘めたプラットフォーム、ノーツ/ドミノ。

ADBS はこれからも進化しつづけるソリューションとして、貢献しつづけてゆきます。

参考：

「バランススコアカードのベストプラクティス」(アンダーセン編・東洋経済新報社)にも、バランススコアカードに適した IT ツールの選び方が載っています。